

# 第3期 御殿場市 教育情報化推進基本計画

令和8年4月  
御殿場市教育委員会

---

April 2026, Gotemba City Board of Education

# 目次

## 第1章 計画の策定にあたって

- 01 計画策定の趣旨・背景 ……4
- 02 計画の位置づけ ……5
- 03 計画期間 ……6

## 第2章 現状と分析

- 01 国の動向 ……8
- 02 第2期計画の取組と課題 ……9

## 第3章 教育情報化推進に向けて

### 基本方針1

- 未来社会に向けた児童生徒の  
健やかな心身の成長促進 ……14

### 基本方針2

- ICT機器を活用した児童生徒の  
資質・能力の向上 ……15

### 基本方針3

- 教育ICT環境の計画的整備による  
校務の改善 ……17

### 基本方針4

- 安心安全な環境を実現する  
セキュリティ体制の構築 ……20

## 参考

用語集

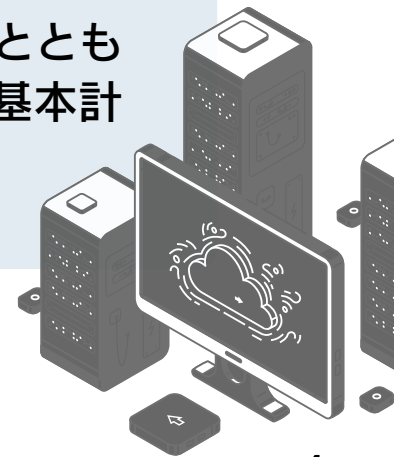
# 第1章 計画の策定にあたって

## 01 | 計画策定の趣旨・背景

近年、情報通信技術や生成AI\*をはじめとする先端技術が社会のあらゆる場面に浸透し、私たちの生活にさまざまな変化をもたらしています。また、国際情勢の変化は激しく、予測困難な時代が到来しています。こうした状況のなかで、これからの時代を生きる子どもたちには、多様な価値観を尊重し支え合いながら、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に学び続ける姿勢が求められています。

一方で、不登校や日本語指導を必要とする児童・生徒の増加など、子どもたちを取り巻く状況はますます多様化・複雑化しています。そのため、一人ひとりに寄り添った支援や幅広い教育ニーズへの対応が必要であり、魅力ある教育環境の整備が教育現場で重要な課題となっています。加えて、教員の働き方改革を推進し、教員が子どもたち一人ひとりと向き合う時間を確保することも、教育の質を向上させるための欠かせない取り組みであるといえます。

御殿場市教育委員会は、子どもたちの意欲を引き出し、主体的に学び続ける力を育むとともに、学校教育が直面する課題の解決を図るため、「第3期 御殿場市教育情報化推進基本計画」を策定し、学校教育の情報化を進めていきます。



## 02 | 計画の位置づけ

本計画は、本市の最上位計画である「第五次御殿場市総合計画 前期基本計画」の教育文化分野を基礎として策定された「御殿場市『富士山のように大きな心を持った人づくり』大綱」及び「第3期御殿場市教育振興基本計画」等に基づいて位置づけられるものです。

本計画は御殿場市の教育情報化についての基本方針を定めており、同方針を各事業内容へと反映させていくものです。

### 第五次御殿場市 総合計画 前期計画



「緑きらきら、人いきいき、未来へつなぐ交流都市御殿場」を将来都市像と定める最上位計画。基本構想10年、基本計画前後期各5年。

### 御殿場市教育大綱 (前期大綱)



「富士山のように大きな心を持った人づくり」を基本理念とする教育大綱。教育、芸術、文化振興に関する総合的施策を示す。

### 第3期 御殿場市 教育振興基本計画



御殿場市総合計画や御殿場の教育に関する大綱を進めるための、教育施策の方向性を総合的・体系的に示す計画。

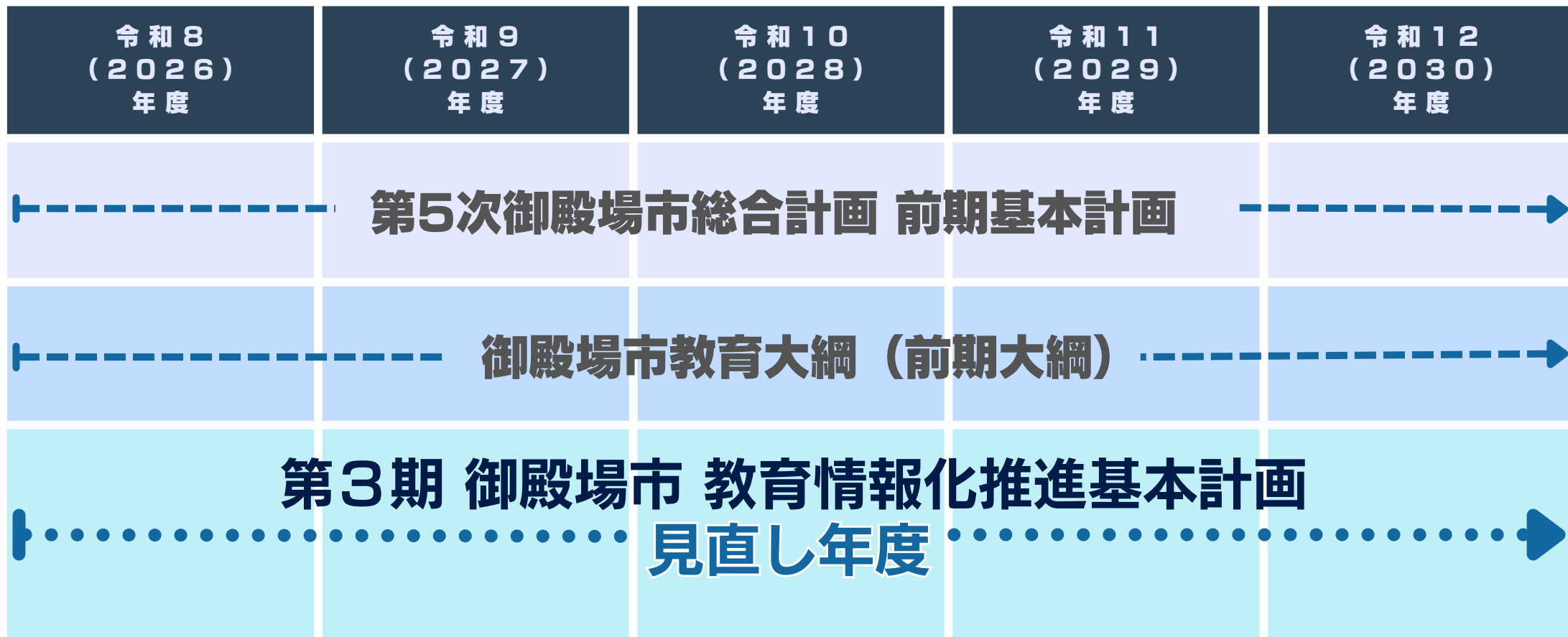
### 第3期 御殿場市 教育情報化推進基本計画

本計画。国や県の示す教育政策を加味し、教育の情報化を推進するための方針を示す計画。

## 03 | 計画期間

本計画の計画年度は、「第五次御殿場市総合計画 前期基本計画」及び「御殿場市の教育に関する大綱」の計画期間である令和12年度までの5年間とします。

なお、技術革新のスピードを考慮して、見直しの年度を下図のとおり設定します。



# 第2章 現状と分析

## 01 | 国の動向

### GIGAスクール構想の発足からデジタル化第一段階の完了

令和元年6月に「学校教育の情報化の推進に関する法律」が公布・施行され、基本理念や国の責務が明確化しました。同年12月には「GIGAスクール構想\*の実現パッケージ」が公表され、学習者用端末と校内LANの標準仕様例示、クラウド\*活用前提のセキュリティガイドラインの改訂が進められました。

令和2年度以降、新学習指導要領\*が順次実施され、情報活用能力の育成が明記されました。新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、構想は前倒しされ、令和元年度補正予算により1人1台端末と高速大容量通信ネットワークの抜本的な整備が開始されました。

令和4年12月には、これまでの成果と今後の方向性を示す「学校教育情報化推進計画」が策定され、Society 5.0\*時代に求められる資質・能力の育成、教員のICT活用指導力の向上、ICT環境整備、ICT推進体制整備と校務改善の4つの基本方針を提示しています。また、同計画の中で、デジタル化の第一段階が整ったとされました。

### 次のステップへ

令和6年12月には、「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」が改訂されました。生成AIを「人間中心」で活用し、児童生徒の情報活用能力を育成するという基本的な考え方に基づき、教員の校務効率化や、児童生徒の学習活動における具体的な活用場面が提示されています。

令和7年1月には、「令和7年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」が策定されました。同方針では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためのICT環境整備方針を定め、学習者用端末の1人1台整備、指導者用端末、大型提示装置\*、ICT支援体制、学習者支援ツールの設置と機能に関する考え方が具体的に示されました。併せて、校務DX\*環境整備として、次世代校務システム導入とロケーションフリーでの校務処理を推進する方針も示されています。

## 02 | 第2期計画の取組と課題

## 第2期基本方針 01 ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

取組の方向性	具体的な取組	評価
個別最適な学びと協働的な学びの推進による学習活動の充実	<p>タブレットを用いた授業展開は当たり前の授業風景として定着しつつある。学校現場で必要とされる新規アプリの追加申請体制を構築したことにより、児童生徒それぞれの特性に則した学びと協働的な学びの環境整備が可能となった。</p> <p>令和8年4月更新のタブレット端末は、ストレージ容量が大幅に増加され一層の活性化が期待される。</p>	○
特別な支援を要する児童生徒の学びへのICT活用	<p>令和6年度より各教員にZoomアカウントを配布し、教室外での授業環境を整備した。</p> <p>令和7年度より教育支援センターを利用する児童生徒の学習用IDを、センターでも共有することで利用者が学習支援アプリや、デジタルドリルを活用しやすい環境を整備した。</p> <p>今後は整備にとどまらず、活用実態を加味した運営体制を構築する必要がある。</p>	○
情報モラル教育の充実	<p>令和6年度にICT推進委員会での協議を経て、動画を活用した情報モラル教材「エンサップ」を導入したが、教育現場への周知不足により、利活用が進んでいない。</p> <p>令和5年度から7年度の御殿場市教育フォーラムでは、教育ICT部会において有識者による情報モラル教育に関する講演が行われ、教員の情報モラルに対する理解と知識の向上を図った。</p>	△



ICTを活用した学習活動を充実させるための環境整備は進んだ。今後は円滑な運用が可能となるように、学校現場の実態に則した調整を進めていく。

情報モラル教育について、教育現場における教材の利用促進に向けた取り組みを進め、情報モラルの重要性について、児童生徒に周知を徹底していく必要がある。

## 02 | 第2期計画の取組と課題

### 第2期基本方針 02 教員のICT活用指導力の向上と人材の確保

取組の方向性	具体的な取組	評価
ICT支援員*等の弾力的な配置	教育現場におけるICT機器活用の実態を精査し、支援員の学校訪問回数や、支援する業務の見直しを実施した。 ICT支援員に関するアンケートを実施し、効率的な配置の検討を進めた。	○
ICT研修の充実	導入しているアプリの研修会開催の情報提供や、指導主事による授業改善を目的とした指導資料の周知を実施した。 一方で、教育委員会主導の研修会は、教育フォーラム内での部会の開催に留まった。 アンケート等で確認している教育現場からの声をもとに、効果的な研修の実施が必要となる。	△
学校内・学校間での情報共有体制の構築	Google Workspace for Education*を導入し、Googleが教育向けに提供しているアプリが利用できる環境を整備した。 学校現場に対する活用のメリットや整備方針の説明が不足していたため、今後は利用促進に向けた取り組みを進める。	△
先進事例の調査研究	県総合教育センターや民間企業が主催する研修会への参加や、県ICT教育推進協議会に出席し、先進事例の情報収集に努めた。	○



学校間でICT機器の活用状況に差が生じており、その原因として活用事例の共有が不十分であることや、教員へのサポートが不足していることが挙げられる。教員の多忙なスケジュールの中では、すべてのICT機器や教材アプリ等の研修を実施することは困難であり、時間や場所的な制約をなくした教員の研鑽の機会の確保が課題となる。

## 02 | 第2期計画の取組と課題

## 第2期基本方針 03 ICTを活用するための環境の整備

取組の方向性	具体的な取組	評価								
安全かつ安定したICT環境の構築	学習系端末の校内での通信状況維持のため、リピータ*の設置や、経年劣化が認められるミラーリング*機器の更新等を実施した。今後は校内のアクセスポイント設置を視野に入れた検討を進めていく必要がある。	△								
教育用ソフトウェア等の効果的な整備	学習eポータル*を介してデジタル教科書が利用できるように整備した。複数ある教科書会社が発行するデジタル教科書を一つの入り口で管理できるように整備した。	○								
機器の更新に向けた計画的なICT環境整備	更新計画に沿った整備を実施した。文部科学省が実施している「学校における教育の情報化実態等に関する調査*（令和7年3月現在）【確定値】」の御殿場市の整備状況は次のとおり。 <table border="1" data-bbox="622 858 2016 1072"> <thead> <tr> <th>児童生徒一人当たりの学習者用コンピュータ台数</th> <th>インターネット接続を行う普通教室の割合</th> <th>普通教室の大型提示装置整備率</th> <th>統合型校務支援システム*整備率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.1台/人 (全国平均1.1台/人)</td> <td>100% (全国平均99.3%)</td> <td>100% (全国平均91.0%)</td> <td>100% (全国平均94.8%)</td> </tr> </tbody> </table>	児童生徒一人当たりの学習者用コンピュータ台数	インターネット接続を行う普通教室の割合	普通教室の大型提示装置整備率	統合型校務支援システム*整備率	1.1台/人 (全国平均1.1台/人)	100% (全国平均99.3%)	100% (全国平均91.0%)	100% (全国平均94.8%)	○
児童生徒一人当たりの学習者用コンピュータ台数	インターネット接続を行う普通教室の割合	普通教室の大型提示装置整備率	統合型校務支援システム*整備率							
1.1台/人 (全国平均1.1台/人)	100% (全国平均99.3%)	100% (全国平均91.0%)	100% (全国平均94.8%)							
情報セキュリティ対策の徹底	令和6年度に『御殿場市教育情報セキュリティポリシー』を策定したが、学校現場での周知が徹底されておらず、セキュリティリスクへの認識不足や、不適切な運用が確認された。今後は、機器整備によるセキュリティ強化に併せて、セキュリティ意識の向上、運用規則の定着に重点を置く取り組みを進める。	△								



ICT機器の整備は着実に進められたものの、セキュリティリスクを考慮した運用体制の整備は十分ではなかった。ICT機器の活用による利便性向上は、セキュリティリスクと密接に関連しており、利便性の追求とセキュリティ対策のバランスを調整した運用体制の構築が重要である。

## 02 | 第2期計画の取組と課題

### 第2期基本方針 04 ICT推進体制の整備と校務の改善

取組の方向性	具体的な取組	評価
ICT推進体制の構築	<p>ICT推進委員会により、各学校のICT活用状況を把握し、校長会を介してICT推進における喫緊の課題への対応策を提示する体制を構築した。</p> <p>アンケートフォームを活用して、導入後のアプリの活用状況を検証し、使用マニュアル等を作成した。使用マニュアルは、学習eポータルで公開することで、タブレットから常に確認できる環境を整備した。</p>	○
ICT機器の活用による校務効率化と教員の負担軽減	<p>学習支援アプリ「ロイロノート」、デジタルドリル「eライブラリアドヴァンス」について、GoogleアカウントによるSSO*（シングルサインオン）を設定することで運用を促進することができた。</p> <p>また、校務の効率化を目的に、グラフィックデザインツール「Canva*」や、生成AI「ChatGPT*」、「Gemini*」、「NotebookLM*」を教員アカウントで利用できる環境に整備した。</p> <p>一方で、急速な整備に教育現場が追いついていない状況も見られる。教員の負担軽減のため、学校現場に寄り添った丁寧な対応が求められる。</p>	△



ICT推進や校務の効率化を図るにあたり、生成AIの活用は大きな効果が期待される。当市においても今後は積極的な利用を推進していきたい。一方で、生成AIの特性を理解した運用が可能となるよう体制を整えることが重要となる。

また、校務DXの推進では、場所にとらわれない働き方の実現とセキュリティ向上が急務となっており、次期校務支援システムはクラウド化の予定である。県域内の校務支援システムの共同調達も見据えて、導入等についてどのように歩調を合わせていくかが課題となっている。

# 第3章 教育情報化推進に向けて

## 基本方針

## 01 未来社会に向けた児童生徒の健やかな心身の成長促進



ICTが生活に深く浸透した現代社会において、子どもたちが健やかに成長するためには、技術的な活用スキルのみならず、デジタル社会を生きる一員としての倫理観や責任感、そして自らの心身を守る知識と習慣が不可欠です。また、学習の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」を育成していく必要があります。

## ■方向性・取組

## 01

### 発達段階に応じた情報モラル教育の体系的実践

従来の「～してはならない」という禁止事項の学習を中心とした情報モラル教育から、自らのウェルビーイング\*を維持しながら課題解決に取り組む能力と態度、「デジタル・シティズンシップ\*」を育成する教育へと転換を図ります。

## 【具体的取組】

- 情報モラル・セキュリティ教育の推進
- エンサップ（情報モラル教育デジタル教材）の年間指導計画への位置付け

## 02

### 情報活用能力の育成推進

児童生徒が、主体的に情報を収集・整理・分析し、課題解決や表現に生かす力を育成します。

検索やデータ整理ツールを用いた探究活動、プログラミングやデジタル教材による論理的思考力の育成、プレゼンソフトや動画編集など多様な表現手段の活用を各教科で推進します。

## 【具体的取組】

- 御殿場市情報活用能力育成4ステップの周知、活用
- 情報教育指針の改定
- 御殿場市教育ICTランドデザインの更新

## 03

### 心身の健康課題への対策と家庭・地域との連携

科学的知見に基づき正しい知識を広め、予防策を講じます。子どもたちが自ら健康を管理する力を育てることを目指します。

また、保護者や地域と協力し、子どもたちの健康に配慮したICT利用環境を整えます。

## 【具体的取組】

- 心身の健康に留意してICTを活用するためのガイドブックの作成
- 学校と家庭での対話を促す仕組みづくり

## 基本方針

## 02 ICT機器を活用した児童生徒の資質・能力の育成



GIGAスクール構想によって整備された1人1台端末環境を最大限に活用し、全ての児童生徒が自らの学習状況や興味・関心に応じて学びを深められる「個別最適な学び」と、他者と対話し、協力しながら新たな知を創造する「協働的な学び」を、より高い次元で一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現します。

## ■方向性・取組

## 01

学習データの活用による  
教育の質の向上

学習支援アプリやデジタル教材を活用し、習熟度や興味に応じた課題に取り組みできるようにします。

児童生徒一人ひとりの理解度や、学習意欲等をきめ細かく把握し、効果的な個別支援や学級全体の指導改善につなげることで、教育の質を向上させます。

## 【具体的取組】

- デジタルドリルの計画的な活用促進
- 学習支援アプリの活用情報の共有
- 保護者との学習状況の共有

## 02

個別最適な学びと協働的  
な学びの手段としての活用

従来の教科書やデジタル教科書、ノートやタブレットなどアナログ・デジタルのいずれにも偏らない、多様な学習手段から選択できる環境を設定します。

子どもたちが自分に合った学び方を選択し、理解を深め表現の幅を広げることにつなげます。

仲間と考え、協力しながら学びを深める活動を推進します。

## 【具体的取組】

- 共同編集機能を活用した学びの促進
- デジタル教科書・教材の活用

## 03

研修会の計画的な実施と  
情報共有体制の構築

各校の実態や要望に合わせ、生成AI活用研修、GoogleWorkspaceなどのクラウドツール活用研修等、ICT研修を計画的に行います。

また、クラウドツールを活用した情報の発信を行うことで、授業に関してもいつでもどこでも簡単に情報を共有することができるようにします。

## 【具体的取組】

- Google Workspaceの活用促進
- オンライン研修の充実化
- 実践で使える情報の発信

# 児童生徒の資質・能力の育成

# UP

## 主体的・対話的で深い学びの実現



培われた教育実績  $\times$  ICT  $=$  授業改善

アナログとデジタルのそれぞれの良さを生かした、**ベストミックス**な状態を目指す

### 個別最適な学び

- ・個に応じた学習活動・課題の提供
- ・必要に応じた重点的な指導
- ・自己調整学習
- ・学び方の選択

#### 【期待される効果】

学習内容が定着し、学習が深化、広域化する。

### 協働的な学び

- ・共同編集や考えの共有
- ・多様な他者との協議
- ・友達、教師との対話
- ・地域との関わり

#### 【期待される効果】

異なる考え方が組み合わせられ、より良い学びを生み出す。

## 基本方針

## 03

## 教育ICT環境の計画的整備による校務の改善



急速なデジタル化による環境と活用の溝を解消するため、タブレット端末整備や生成AIの適切な活用を進めます。システムの連携強化により教員の負担を軽減し、児童生徒が安心して学習に取り組める環境を整備します。

## ■方向性・取組

## 01

タブレット端末の  
効果的な運用・整備

令和8年度にはタブレット端末が更新され、一層の活用が期待されます。これに伴い、円滑な活用を維持するための適切な管理体制を構築します。

タブレット端末を効果的に活用するためには、教員および児童生徒が生成AIに関するルールを遵守し、適切に運用することが重要となります。

## 【具体的取組】

- アカウント管理体制の見直し
- タブレット端末の円滑な導入
- 「生成AI活用のガイドライン」の策定

## 02

校務DX化促進のための  
機器及びシステムの整備

個々の業務に対するシステム化は現時点で概ね完了している一方、業務間のシステム連携が進んでいない状況を改善します。

システム連携により教員の業務負担を軽減させ、教員が子どもたちと向き合う時間を確保できるよう努めます。

## 【具体的取組】

- クラウド型校務支援システムの導入
- グループウェアの導入
- 校務系機器の更新

## 03

校務系以外の機器  
及びシステムの整備

学校のICT化を推進するには、校務系のシステムや機器の整備だけでなく、関連システムや機器の整備が重要になります。

保護者との連絡用のアプリの導入や、学習者用端末を授業で効果的に使用するための大型提示装置の計画的な整備を実施します。

## 【具体的取組】

- 保護者連絡アプリの選定及び導入
- 現場に即した大型提示装置の更新
- 図書システムの更新

# 基本方針【参考資料】 ③ ICT整備計画一覧表

整備機器等	学校区分	R8	R9	R10	R11	R12	整備内容（概略）
校務用PC 及び周辺機器	小学校	保守契約	R9年度～R14年度のリース契約を予定				<ul style="list-style-type: none"> <li>導入PCは持ち帰り可能な端末を想定</li> <li>強固なアクセス制御が可能な仕様</li> <li>R13年度以降の機器更新で、学習用端末と校務用端末の統一化を検討</li> <li>Wi-Fi環境整備についても継続的に検討</li> </ul>
	中学校	R8年度～R13年度のリース契約を予定					
校務支援システム	全学校	R8年度～R13年度のリース契約を予定					<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウド版を導入予定</li> <li>他システムと連携し教育データを収集</li> </ul>
グループウェア	全学校	R8年度～R13年度のリース契約を予定					<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムと連携 校内連絡ツール 施設管理 出退勤管理</li> </ul>
保護者連絡アプリ	全学校			導入予定			<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムと連携を想定</li> </ul>
図書システム	全学校	現契約を保守		更新予定			<ul style="list-style-type: none"> <li>市図書館システムとの連携を見越した更新</li> </ul>
学習用端末	全学校	R8.4導入 関連するライセンスは5年契約					<ul style="list-style-type: none"> <li>R7年度に更新契約完了</li> <li>【iPad】 128GB</li> <li>学習eポータル：L-gate</li> <li>学習支援アプリ：ロイロノート</li> <li>デジタルドリル：eライブラリ</li> </ul>
大型提示装置	全学校	概ね3年間で更新予定					<ul style="list-style-type: none"> <li>機器の状態から対象校を選択</li> <li>モニタ、プロジェクタを各校と協議し決定</li> </ul>
プログラミング教材	全校	更新予定					<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領と教育現場の整合を図りつつ、教材を更新。</li> </ul>

※上記一覧表は2025年9月末時点の整備状況から作成した案となっております。財政状況や整備状況の変化により変更する場合があります。

# 03 御殿場市が目指すICT環境整備

## 教育委員会

上位のアクセス権限で各校のデータを把握。グループウェアで情報共有を円滑化。



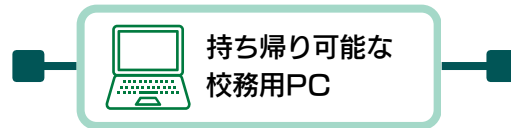
## 市立図書館

市立図書館と学校図書室をシステム連携。



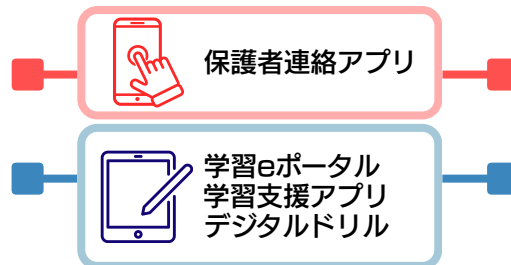
## 教員自宅

多要素認証とアクセス制御端末で安全に自宅で業務。



## 家庭

保護者連絡アプリで学校と連携。タブレットでデジタル自宅学習。

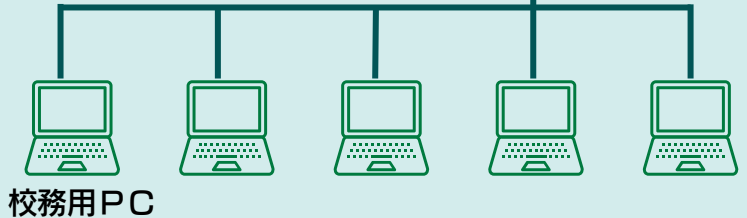


## 職員室

### システム連携による業務フローの簡素化



校務支援システム  
グループウェア  
出退勤管理  
保護者連絡アプリ

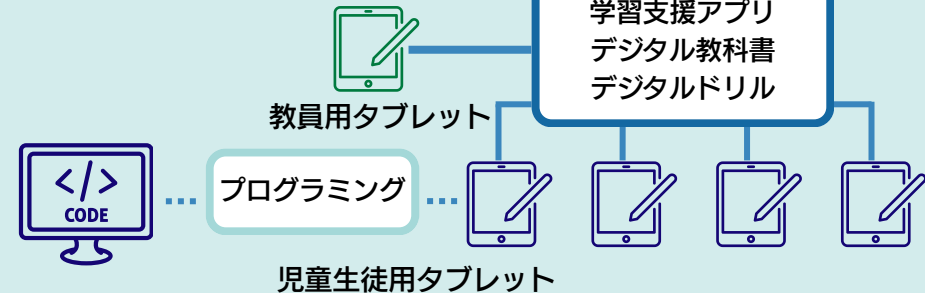


## 教室

### タブレット端末を活用した円滑な授業展開

大型提示装置

学習eポータル  
学習支援アプリ  
デジタル教科書  
デジタルドリル



# 04 安心安全な環境を実現するセキュリティ体制の構築



緊急時対応計画の見直しや具体的な行動マニュアルの改善を進め、迅速なインシデント対応体制を構築します。また、機器の整備を通じてリスク管理を徹底するとともに、セキュリティ意識向上に取り組み、安全で円滑な業務環境の実現を目指します。

## ■方向性・取組

### 01

#### インシデントを教訓とする 緊急時対応体制の構築

2025年に発生したインシデント\*への対応を分析し、その結果を緊急時対応計画やCSIRT\*の具体的な行動マニュアルに反映します。

また、これらの計画に基づく訓練を実施することで、緊急時に迅速かつ適切な対応ができる体制を整えます。

##### 【具体的取組】

- 緊急時対応計画の策定
- CSIRT行動マニュアルの策定
- インシデント発生時訓練の実施

### 02

#### 機器整備による セキュリティ強化

納品業者やデジタル戦略課と十分な協議を行い、リスクのある技術を排除するとともに、リスク管理を徹底した環境整備に努めます。

業務改善を妨げることなく、安心して校務を遂行できる環境の構築に取り組みます。

##### 【具体的取組】

- USB使用に関するルールの遵守徹底
- 教員端末のアクセス制御・二重認証設定
- 校務系サーバーのクラウド化

### 03

#### セキュリティ意識の 向上促進

効率化や利便性を追求した結果を振り返り、従来の慣習によって見過ごされていた通常業務でのセキュリティ違反を撲滅します。

セキュリティポリシーを意識した業務の実現を目指し、市教委職員および教員の知識と意識の向上に取り組みます。

##### 【具体的取組】

- 情報セキュリティに関する監査を実施
- 各学校の情報セキュリティ手順書を策定
- 教員のセキュリティ認識調査の実施

# 参考

# 参考

用語の解説 本編中、\*で記した用語の解説をしています。

行	用語	説明	頁
あ	ICT支援員	学校におけるICT機器の活用をサポートする人材。授業支援や研修支援に加え、操作支援や入力補助といった校務支援も行う。	10
	インシデント	ITや情報セキュリティの分野では、システムやネットワークに関する問題、障害、もしくはセキュリティ上の脅威につながる出来事。	20
	ウェルビーイング	身体的・精神的・社会的に満たされ、良好で充実した状態を指す概念	14
	大型提示装置	教室に設置されている、モニタやプロジェクタなどのICT機器。	9
か	学習eポータル	日本の初等中等教育（学校教育）に適した共通で必要な学習管理機能を備えたソフトウェアシステムで、学習の窓口機能や連携のハブ機能、文科省システム（MEXCBT）のアクセス機能がある。	11

行	用語	説明	頁
	学習者用端末	GIGAスクール構想に基づき、児童生徒一人ひとりに整備されたコンピュータ端末。	8
	学校における教育の情報化実態等に関する調査	文部科学省が毎年実施している統計調査。国や地方自治体が教育に関する施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的としている。	11
	Canva	オンラインで使える無料のグラフィックデザインツール	12
	GIGAスクール構想	Society 5.0時代を生きる子どもたちの能力を育むために、文部科学省が推進するICT環境整備の取り組み。	8
	クラウド	「クラウドコンピューティング」の略称で、インターネットなどのネットワークを通じて、利用者にコンピューター資源やサービスを提供する仕組み。	8
	Google Workspace for Education	Googleが教育機関向けに提供しているクラウドベースのツールとサービスのセット。学校での学習や指導を効率化し、生徒の協働学習を促進することを目的としている。	10
	校務DX（デジタルトランスフォーメーション）	デジタル技術を活用して、学校における教員の業務（校務）のあり方を抜本的に改革する取り組み。	9

行	用語	説明	頁
さ	新学習指導要領	文部科学省が策定した教育課程（カリキュラム）の基準。	8
	SSO（シングルサインオン）	一度の認証で複数のアプリケーションやサービスにログインできる仕組み。	12
	生成AI	学習済みのデータから、新たなテキスト、画像、音声、動画といったコンテンツを自律的に生成できるAI技術。	8
	CSIRT	教育情報セキュリティに関する統一的な窓口	20
	Gemini	Googleが開発した高性能な生成AIモデル。テキスト、画像、音声、動画、コードなど、複数の種類の情報を同時に認識し処理できる。	10
	Society 5.0	サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。	8
た	ChatGPT	OpenAI社が開発した対話型AI（人工知能）サービス。インターネット上の膨大なデータを学習した大規模言語モデル（LLM）を基盤としており、ユーザーからの質問や指示に対し、自然な文章で回答や文章生成、翻訳、プログラミングコード生成など、幅広い知的作業が可能。	12

行	用語	説明	頁
	デジタル・シティズンシップ	デジタル技術を活用して社会に積極的に参加し、責任ある行動をとる能力や態度。	14
	統合型校務支援システム	学校の教職が日々行うさまざまな事務作業（校務）をデジタル化し、一つのシステム上で一元管理・連携できるようにした情報システム。	9
な	NotebookLM	Googleが開発したAIを搭載したノート支援ツール。ユーザーがアップロードしたPDFやGoogleドキュメント、WebサイトのURLなどの資料を情報源（ソース）として、AIがその内容を理解し、要約や分析、質問への回答が可能。	12
ま	ミラーリング	タブレット端末等の画面をテレビやモニターにそのまま映し出す技術をいう。御殿場市では主に授業で教員や児童生徒のタブレットの画面を教室に設置されている大型提示装置に映し出して利用している。	11
ら	リピータ	弱くなった電波や信号を、受信して増幅・整形し、より遠くまで届ける・通信範囲を広げるための装置や中継局のことをいう。	11